

## うつけ通信 vol. 12

本誌では「三つの村」の構想について連載してまいりましたが、今回はいよいよ最終章である「地球蘇生村」についてのお話をお届けします。

私たちは何をするために人間に生まれてきたのか。この問いには百人百様の答えがあると思います。けれども、枝葉末節の答えを取り払って、根源の回答をズバリ申しますと、それは「地球に加勢するため」、言い換えると「地球に恩返しするため」であるということです。

この前の話では、地球環境を破壊しているのは犬でも猫でもない、人間だけだと申し上げました。しかしまた逆に、**人間だけが地球の運行に加勢し、報恩できる生物でもある**ということなのです。人間が他の生物に対して唯一誇れるところは、地球の運行に加勢できるということなのです。また恩返しができるのは人間だけの特権なんです。ここにこそ、人間に生まれてきた価値があるということです。そして「地球蘇生村」は人間に生まれた価値を果たす村なんですね。

地球蘇生村の蘇生とは、傷ついた今の地球が本来の姿に蘇るといふ意味の他に、地球と人間との関係が本来の係に還るといふ意味があります。私たちは自然と調和し、地球の運行に則って生活しますと、なんの無理もなく健康で喜び溢

れる人生が送れるようになっていきます。これを生きがいのある人生とかやりがいのある一生と表現します。ですからまずは衣食住を正して自分自身が健康に暮らせる生活環境を整えることが地球への恩返しそのものなんです。

その次の段階としては、自分のもてる力を地球のために使うことです。それが地球へ加勢するということであり、報恩の生き方です。そのためには地球が喜ぶことを自分の仕事にすることが一番です。今の世の中では、「人が喜ぶこと」が仕事や事業の内容になっていきますけれども、地球蘇生村は、「地球が喜ぶこと」を仕事にします。具体的な例を挙げますと、自然の法則に基づいた衣食住の生産、「呼吸する土」を使った環境浄化事業などです。

地球蘇生村は、地球のために労力を提供しあえる場所、つまり地球のために働く場所です。とはいってもここはボランティアの村ではありません。まっとうな仕事をして、働いた分の給料をもらって暮らしてゆける場所です。その給料の出所、つまりどうやって事業を運営するのか心配される方もいらっしゃるでしょうが、ネタは色々あります。

例えば環境浄化という分野は13兆円の市場と言われていています。よく工場跡地がヒ素や六価クロムなどの有害物質に汚染されていたなんてことがニュースで取り沙汰されていますね。これに対し現在は浄化する方法がないので、汚染された土地を掘り起こして廃棄するというようなことをして、時間と労力とエネルギーとコストを無駄にしています。しかし皆さんご存知の「呼吸する土」は、上から撒いたり置いたりするだけで、有害物質で汚染された土地を浄化してしまいます。汚染によって無価値になってし

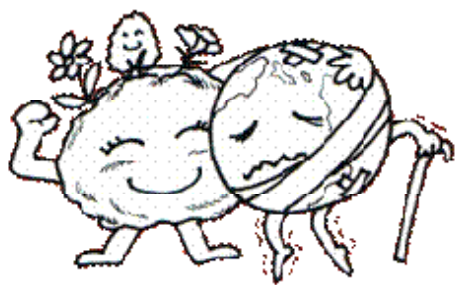
まった土地が、そんな簡単なことで近隣相場と同等の価格に化けるわけです。ですから、この分野を押し進めるだけでも事業として運営してゆけることがおわかりいただけるとおもいます。もちろん汚染土壌の浄化事業などは地球蘇生活動の一部に過ぎません。

ここは会社ですから入社や退社はもちろんそれぞれの自由です。ここに勤めてみて気に入らなければ他の会社に転職すればいいだけのことです。しかし、就労条件は相当な厚遇ですから、転職するのはもったいないですね。(笑) といいますのは、この村は正しい衣食住の実践展開の村ですから、自然の法則に基づいた衣食住による「まともな生活環境」が用意されているわけです。つまりここに来れば社宅付きで食事付きというわけです。さて、ここでの正しい衣食住による正しい生活環境で暮らせば健康になり、無意識に心身ともに蘇り、本来の自分が現われて、自分の内側から地球への報恩の気持ち自然に湧き出てきます。これが自然界と接している証です。

前回と前回にお話しました「正統工法継承村」と「野生化する種まきの村」は世界に唯一の村ですが、地球蘇生村は各地に作ります。「正統工法継承村」と「野生化する種まきの村」はお手本の村。地球蘇生村は実践展開の村です。つまり地球蘇生村は正しい衣食住の生産を仕事にしてゆく村であり、事業所であるわけです。

このことは社会の活性化という面においても大いなる貢献となります。全国的に雇用の確保ができる。次に社会の経済は地球蘇生村の影響を受けて地球生命を優先したまともなものになります。三つ目はこの村で生産したまともな衣食住が全国の消費者に提

供できるようにもなります。今の社会はニートと呼ばれる就労意欲のない若者で溢れかえっているようですが、現代のように荒んだ衣食住に囲まれていればそのような若者が多数出てくるのは当然です。しかしそのような若者でもここにくれば正しい衣食住による生活環境によって、無理なく本人の内側からやる気が引き出されてきます。目を輝かせて日々生き生きと働ける人間に生まれ変わります。修行や説法や教育で変えるのではなく、日々の衣食住がごく自然に彼らをエネルギーでアクティブでダイナミックで輝いた若者にしてゆくのです。ここで働くのに学歴も老若男女も問いません。定年退職をした方が、やりがいのある人生を取り戻せる場所でもあります。



ここには『共通の人生』というものがあります。地球へ報恩したいという想いは、気づくチャンスがあったか無かったかだけのことで、人間として生まれたものなら誰もが備えている本能です。ですから、この事業は人類共通の目的と価値観にもとづいて運営されるわけです。一人では地球を蘇生するほどの大きな力にはなりません、皆が集まるとそれが

可能になります。目的と志の共通したものが、自身自身の自由意志で地球のために惜しみなく力を出し合う。この村ではそのような者が集まって、生きがいとやりがいをもって働き、協力しあって生きる力強い姿があります。ここにこそ本当の大きな喜びがあります。このことを和の力と表現します。

今の世の中はみんなバラバラなんです。それぞれが枝葉末節末端の価値観を必要以上に大事にして、その上でお互いが干渉しあわないことをよしとするような風潮があります。その人たちは価値観の違いを認め合っているのだなど一見立派なことを言いますが、ひきこもりやイジメとか自殺者の激増する現実をみると、正しいこととは言えません。

例えば、呼吸大学ではチームを作って「呼吸する家」の建築をしています。家を建てるにあたっては、設計士・大工・鳶・左官屋・屋根屋・電気や水道の配線や配管・・・というように、それぞれの職人がそれぞれの分野を担当します。やることはそれぞれに違いますが、長持ちする家を建てるという目的は一緒です。健康な住まいを建てるという価値観は同じです。だからこそ、それぞれの違った役割が生きてくるわけです。お互いに必要としあえる関係、お互いの違いを認め合える関係は、同じ目的と共通の志をもってはじめて成り立つ関係であるということです。議論や競争も、目指す方向が違えば単なる足の引っ張り合いに終わってしまう無益なものです。目的を同じくするもの同士であればお互いを高めあうことができます。

私たちにとって地球という土台は共通です。地球があるから生きてゆけるといのは誰しもに共通することです。また子供に幸せになってほしいという想いは、親ならみんな共通です。子孫に美しい地球

環境と生活環境を残す。地球と人間とが共生してゆける社会を創り、未来へ伝える。この共通目的のために起こす行動は喜びとエネルギーに満ち溢れさせてくれます。それは和の力を生まれさせます。生きがいのある人生、そしてやりがいのある人生を送れる活力一杯のコミュニティが地球蘇生村というわけです。

#### \*\*\*\*\* 編集後記 \*\*\*\*\*

宮本先生の過去の講演録をもとに、4回にわたって「三つの村」構想を探りあげさせていただきました。ただこれはあまりにも遠大な構想なので、編集している私自身の理解が及ばなかったところもあつたとおもっています。ですから読者の皆さまにお伝えしきれなかったところも多かったのではないかと振り返っています。

しかし構想自体は遠大であっても、三つの村の自身はそんなに難しいものでもないようにおもえます。毎日気持ちのいい家に住めて、生命力の高いものを食べて健康に暮らせる。信頼しあえる仲間と共に自然の中で楽しく仕事ができる。そしてそのことが地球や子孫に喜ばれて、さらに給料がもらえる。但し書きがあるとすると、何も考えずにのほほんと暮らせるユートピアのようなところではなくて、すべて自分たちでまかない、汗水たらして働く会社であるということですね。そんなところでのびのびと暮らしていけたらいいなあなんて単純にそうおもっています。

三つの村構想を掲げた宮本先生の周りに、今後どのような展開が起こってくるのか、非常に楽しみにしています。

ゼ口企画関西支部(0724)67'0644 辻